

2025年11月  
野毛山幼稚園

みんなを好きに

金子みすゞ

私は好きになりたいな、

何でもかんでもみんなな。

残らず好きになりたいな。

葱<sup>ねぎ</sup>も、トマトも、おさかなも

うちのおかずは、みんな、

母さまがおつくりなつたもの。

私は好きになりたいな、

誰でもかれでもみんなな。

お医者さんでも、鳥<sup>からす</sup>でも

残らず好きになりたいな。

世界のものはみんな、

神さまがおつくりなつたもの。

今まで紹介してきた詩を通して、みすゞさんは、どんな相手にも優しく、相手の立場に立って物事を見る人だということを感じられたことと思います。

そんなみすゞさんには好き嫌いはあったのでしょうか。

みすゞさんはこの「みんなを好きに」という詩の中で、自分が嫌なものでも、《お母さんがつくってくれたおかず》《神さまがつくった世界》だから、みんな好きになりたい、好きにならなければ…と自分に言い聞かせているのではないのでしょうか。

みすゞさんは、一部ではなく、すべてを好きになりたい、そう思ったに違いありません。

何でもかんでもみんな、誰でもかれでもみんな…とにかくみんなを好きになろうとした心がこの詩にあらわれているのだと思います。



人には少なからず好き嫌いがあります。すべてを好きになることはとても難しいことです。

幼稚園では食べ物を「嫌い」というのではなく、「苦手」という表現を使っています。

「〇〇は嫌い」と、決めつけてしまうことはよくないのではないかと思います。

食べ物ではなく、それが人だったらどうでしょう。「嫌い」と言われた人の気持ちはどんなでしょう。

おとなになると、好き嫌いははっきりしてきてしまうこともあるでしょう。

自分のものさしで、いい人、悪い人、好き、嫌い、役に立つ、立たないなど価値判断をしてしまいがちです。人との関係の中では、みすゞさんのように、自分から好きになることで、かみあわない関係性が少しでも埋められるのではないかと思います。

友のない人の友になってくださったイエスさま、

苦手なタイプの人がいたときに、イエスさまだったらどうするだろう…

WWJD… What Would Jesus Do ? と、考えたいと思います。